

## いつもの景色の中に見つけた洛西

飯塚みのり

(2018 年度入学 鈴木ゼミ 2 期生)



今回は、私の住む洛西地域、主に洛西ニュータウンとその周辺地域について紹介する。今は「どこに住んでいるの?」と聞かれて、「洛西」と答えてもなかなか認知度が低いのが現状である。今回のこの文章が、洛西という地域を知ってもらおうきっかけになればと思う。

### <概要>

洛西ニュータウンは京都市西京区南西部に位置するニュータウンである。南は向日市、長岡京市、山を隔てて西は大阪府高槻市と接しており、南北には小畑川が流れる。ここは 1960~70 年代にかけて京都市初の大規模計画住宅団地として開発され、計画人口は約 4 万人、団塊の世代が多く住む街となった。4 つの地区(竹の里・福西・新林・境谷)には、それぞれ「サブセンター」と呼ばれる会館と商業施設からなる複合施設がある。ニュータウン全体の中心施設である「タウンセンター」には、バスターミナルや高島屋、郵便局など生活に必要な施設が集中的に立地している。また、市営住宅や UR 都市機構の集合住宅を中心とした住宅や道路、緑地などが計画的に整備されており、自然豊かで住み良い街である。当初予定されていた地下鉄東西線の建設が実現しなかったため公共交通機関はバスのみであるが、最寄り駅までは約 15~30 分程度と京都の中心部まではそう遠くない。サブセンターの衰退、賃貸住宅の老朽化などの問題も抱える一方で、リノベーション住宅や地域の資源を活用した催しも行われている。少子高齢化は否めないが、若年層の呼び込みやより住みやすい街にするための取り組みにまだまだ可能性のある地域である。

### <自然豊かな洛西>

なんと言っても洛西の良いところは、自然が豊かなところである。保育園の年長の頃からここに住む私は、この自然環境が当たり前のように育ってきたが、高校で京都市の中心部に通学するようになってから地元の空気がおいしいと感じるようになった。車通りの少ない広く開けた道路、さわさわと風に揺れる竹林、窓を開けると野焼きの匂い、夜にはカエルや虫の鳴き声。どれも騒がしい日常から解放してくれる自然の恵みである。そんな洛西のオススメの自然スポットをいくつか紹介する。

## 洛西竹林公園



京都の竹林と言えば、嵐山にある竹林の小径が観光名所として知られているが、洛西竹林公園も様々な種類の竹を見ることができるスポットである。この公園はニュータウンの建設に伴い多くの竹が伐採されたことから、竹林を積極的に保存しようと昭和 56 年に開園した。「竹の資料館」には伝統的

な竹製品や竹の生態系がわかるパネルが展示され、茶室も併設されている。また「生態園」は、回遊式和風庭園として造園されており、「竹の小道」で竹林浴を楽しみつつ、“映え” 写真を撮って楽しむのもいいだろう。さらに、応仁の乱の発端となったとされる「百々橋」などの史跡は歴史を感じさせる。

竹林公園以外にも洛西には竹林が多く、私の通っていた小学校では 3 年生と 5 年生で筍掘りの行事があった。子どもたちが地域の資源でレクリエーションできることは非常に魅力的であるし、自分で掘った筍を持って帰って皮をむいて調理したワクワクは良い思い出である。

## 小畑川

小畑川は西京区と亀岡市の境に位置する老ノ坂峠付近を源流とし、桂川と淀川に合流する河川である。中学校までの通学路にあったこの川には、ダイエット時の散歩でお世話になったものだ。春になると川沿いの桜並木が見事に色づき、それに合わせてさくら祭が開催される。夏には夏祭りの屋台で買った食べ物を持って人々が集まる。私は夏祭りで友だちとシャボン玉をした思い出がある。浅瀬には広場があり、何気なしに出向いては友だちとお喋りを楽しんだ。川は人を呼び寄せる力がある。



## 大原野神社

平安時代に建造された大原野神社は別名「京春日」と呼ばれており、紫式部が氏神と崇め源氏物語にも描かれている。また藤原氏ゆかりの地でもあり、国家鎮護の社としての役割を果たした。これらの歴史的魅力に加え、秋は紅葉が非常に



綺麗である。写真からも本殿までの道を真っ赤に染める紅葉の美しさがわかるだろう。この風景は間違いなく洛西の誇りである。また、鳥居をくぐってすぐの茶屋のみたらし団子や、時々私の家まで聞こえてくる鐘の音も好きである。

この他にも9月が見頃の休耕畑を利用したひまわり畑や、“花の寺”と呼ばれる勝持寺など、花の名所もたくさんある。また最近 いちご狩りの施設もオープンしたとか。いちごの季節が楽しみだ。

## ＜洛西ニュータウンは衰退の一途を辿るのか＞

近年、かつてのニュータウンがオールドタウン化し、洛西ニュータウンも大阪の千里ニュータウンや泉北ニュータウンと伴に衰退した街として名が挙がる。実際、大学の授業でも取り上げられているのを耳にした。平成27年度時点での人口は約23,000人で、平成7年からの10年で約33%も減少した。また人口のうち15歳未満の割合は8.9%(市：11.0%)、高齢化率は37.3%(市：25.8%)と、京都市全体の割合と比較しても少子高齢化が著しいことがわかる。(平成27年度国勢調査)。そこで洛西の魅力を発信し住みやすい街にするために、様々な取り組みが行われている。



## 洛西ニュータウンアクションプログラム

「来て・観て 住み続けたいなるまち 洛西ニュータウン！」をキャッチフレーズに、地域住民のコミュニティづくりや若年層の呼び込みを図っている。例えば、先述した大原野のひまわり畑や大原野神社で地域の食・文化を楽しむ「風土・food 大原野」などのイベントが開催されている。また UR 都市機構の展開する団地を、京都女子大学の学生がリノベーションするプロジェクトも稼働中だ。開放的でデザイン性の高い部屋から子育てに適した間取りまで、「この部屋に住みたい！」と思わせる工夫が詰まっている。これまで、“団地はマイホームを買うまでの住居”として選択する人が多かったと思うが、このような部屋にだったら住み続けたいとまで思える。



## サブセンターの可能性

それぞれの地区に設けられたサブセンターは、スーパーの撤退や商店の店主の高齢化が進んでいる。私の家のすぐ近くのサブセンターも、郵便局くらいしか機能してない。しかし、数年前まで盛んにフリーマーケットやママ友が集まるイベントが開催されていたり、穴場の寿司屋があったりと、よく見てみると魅力が隠れている。これらのサブセンターを、それぞれコンセプトや目的を定めて開発できれば面白い特色になり得る。実際、中学の社会の授業では「洛西を盛り上げるためにできること」を考える課題があり、私は昭和レトロな街並みを再現した商店街を作ってはどうかと考えた。地域コミュニティの縮小や少子高齢化に危機感を持って、“どうにかしなきゃ”精神で活性化に取り組むよりも、新たな方法で魅力を発信できる場を作ることができる“ワクワク”を感じながら取り組みたいものだ。

### <大好きだった小学校>

私の通っていた京都市立竹の里小学校は、生徒数の減少により近隣の福西小学校との統合、西陵中学校と合わせた小中一貫教育校となることが決定した。現在の福西小学校の敷地に新校舎が建設予定で、令和7年度の統合（予定）まで竹の里小学校の校舎が使われる。思い出の詰まった小学校がなくなってしまうのは、やはり悲しい。私はかわいらしい校歌が大好きだった。「竹の里の子 まっすぐ伸びる 元気に伸びる」というフレーズには、子どもたちに竹のように素直に育って欲しいという願いが込められている。私はこの小学校にのびのびと育ててもらったので、小学校でなくなった後も地域の人が集まる場所になればと思う。



### <最後に>

この文章を書くにあたり洛西について調べ思い出を振り返ってみて、改めて洛西が好きだと感じた。やはり私にとってのふるさは洛西だなあと思う。できるだけ長く、この土地に住んでいたい。

### <参考文献>

- ・ 京都移住計画「京都・洛西で進展する団地再生 vol. 1  
子育て世代にフィットする暮らしがそこに」2018. 03. 22  
<https://kyoto-iju.com/interview/rakusai1>
- ・ 京都移住計画「京都・洛西で進展する団地再生 vol. 2  
逆に今あたらしいニュータウンの世界」2018. 04. 24  
<https://kyoto-iju.com/pr/rakusai2>
- ・ 洛西ニュータウンアクションプログラム 平成 29 年度 3 月  
<https://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/cmsfiles/contents/0000217/217435/1.pdf>
- ・ 京都市洛西竹林公園 HP <https://www.rakusai-nt.com/tikurin/>
- ・ 大原野神社 HP <http://oharano-jinja.jp/>
- ・ なんやかんや！大原野 え!?今頃ひまわり大原野 <https://bit.ly/3higQcM>
- ・ UR 都市機構 京女×UR <https://www.ur-net.go.jp/west/case/kyojo/>
- ・ 京都市教育委員会 西京区西陵中学校区小中一貫教育校の創設について  
2021. 2. 18 <https://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000254091.html>